

おまけシリーズ

「ガーディアンの気持ち」ならぬ「私の独り旅日記」→第2回

本来ならば、第2回は昨年4月に行った青森、秋田、福島「秘湯の湯」巡りを書く予定でしたが、今年1月（先月）18日から21日に北海道の「秘湯の湯」に行ってきたのでホットなところを書こうと、急遽変更しました。

1月の北海道といえば正に真冬でした。例によってJR東日本とJR北海道の「大人の休日クラブ」の特別企画の5日間、新幹線、在来線乗り放題26620円という格安チケットを買って出かけました。

今回行ったのは北海道の大雪山山系の旭岳の麓にある旭岳温泉の湧駒荘という「日本秘湯を守る会」の温泉に行きました。実はここには去年の夏に行こうと思い、予約の電話をしたら満員で断られて、その時ホテルの方が「冬に来てください」と何気なく言われて冬に行ってきた。実に単純な理由でした。

旭岳の麓まで飛行機を使うと大磯からでも1日で行けるのですが、朝1番の新幹線に乗ってもその日に着けません。そのくらい遠いところでした。

我が家を18日の朝6時頃のバスに乗って二宮駅に、東京上野ラインで東京駅に行き、8時20分発の新幹線ハヤブサ7号（東京から2番目に早い出発でした。）

どの辺から雪景色になるのかな？と置いていたら福島はまだ雪はありませんでした、仙台に近づくに従って雪景色に変わり仙台駅の周辺は銀世界で、いよいよ雪国に来たな、という感じでした。

北海道の新函館北斗までは4時間弱、そこから札幌まで、やはり特急で3時間半、更に旭川まで3時間弱かかり旭川に着いたのは夜7時過ぎでした。

旭川駅の周りだけはきれいに除雪されていましたが、少し離れると歩道も固く固められた雪道でした、（冬の北海道は寒い）という覚悟が出来ていて寒さ対策に登山靴といでたちでしたから雪道で滑ることもなく寒さもさほど気になりませんでした。

明日は旭岳温泉の素晴らしい温泉と御馳走が待っている所以今晚は旭川駅近くのビジネスホテルに泊まり、旭川名物？旭川ラーメンを一人寂しく食べて早めに寝ました。

翌（19日）は午後からのバスで旭岳まで行くので、午前中市内観光をしようと駅の観光案内所に行くと「市内観光のバスはない」歩いて20分ほどで市立の博物館を勧められて、行きました。雪で固められた歩道を「サクサク、キュキュ」と音を立てながら歩き、道路標識の横にある温度計を見るとマイナス17.8度と表示されていました。時々雪が舞う曇り空でしたがさほど寒さも感じずに30分ほどで博物館に着きました。この博物館はアイヌ文化を伝える博物館で、昔の旭川はアイヌ民族が多く住んでいたとのことで、皆さんにもこの博物館はお勧めです。

いよいよ午後1時30分発のバスは旭川市内を抜けて山道に入ると周りの景色

をキョロキョロと見ながら何故か？私の心はワクワクしてきました。

今日の宿の湧駒荘はバスの終点とっていて、温泉入り口という停留所を過ぎてしまい一つ先の停留所まで行ってしまいました。折り返しのバスに乗ろうとしたら運転手が「歩いた方が早いよ」と言われて雪道を 30 分程歩いて午後 4 時頃ホテルに着きました。

早速、露天風呂に入りに行くと 4~5 人の若者が入っていました。彼らの会話を何気なく聞いていると韓国語でも中国語でもなく、しかし顔は東洋人でした。後でホテルの人に聞くとタイ人とのことでした。彼らはスキーに来ていて、安い別のホテルに泊まって、日帰り温泉だけ入りに来たとか。

その後から入ってきたアメリカのおじさんたちとの話が面白かった。

私の英会話は中学校で習った英単語を並べるだけのものですが、なんとか通じるものです。彼らも車でスキーに来ていて、露天風呂だけ入りに来たと言う。私が「アメリカにもスキー場はいっぱいあるでしょう」と言うと、「こんな素晴らしい雪質で、しかも露天風呂付きのスキー場はアメリカにはない」とのこと。なるほどアメリカにはみんな裸で入る温泉も露天風呂のない、そもそもそういう文化がアメリカにはないのか、と変に納得しました。(因みに、その時の露天風呂に日本人は私一人でした)

このホテルは「日本秘湯を守る温泉」宿ですが、昔、秩父宮様や三笠宮様が宿泊されたり、最近ではあの小泉元首相がここで送別会をやったそうです。なんでもこのホテルの料理長の料理が最高に美味しいのが理由だったとか。

ここ旭岳周辺は、新緑の春、夏の高山植物、秋の紅葉と素晴らしく、温泉も料理も楽しめる秘湯の温泉で、是非、皆さんにお勧めです。

3 日目は函館の近くの落部（おとしべ）という所にある、秘湯温泉の銀婚湯という所に行くのですが、旭岳から 1 日掛かりでした。何しろ北海道は広いことと、鉄道はほとんどが赤字路線で列車の便が少なくて駅での乗り換え時間が長く掛かり、車なら 5, 6 時間のところですが 1 日掛かりました。夕食の 6 時半に間に合わせるために途中でタクシーに乗ったりして銀婚湯旅館に着きました。函館の近くですが海と山が近く、こんなところにも温泉が？と思いながらでしたが、家族でやっているような温泉で玄関広間でこの旅館のお子さんがバトミントンをやっているのには驚きましたが、そのくらい家族的な温泉でした。海の幸、山の幸の料理もおいしく、夕方から降り出した雪の中での露天風呂では時々屋根からドサツと雪が落ちるのを見ながらの風情は格別でした。

4 日目は仙台の友人に会いに行くのですが大雪で予定していた電車が運休になりバスを乗り継いで、どうにか仙台まで行き、友人と会うことができました。

米 今回の真冬の北海道の一人旅は最高でした。

尚、「日本秘湯を守る会」という温泉については月報の 3 月号で詳しく書きます。

(By テツ&ゴン)